

ぼうさい

DISASTER MANAGEMENT NEWS

平成22年 1 月号
JANUARY
2010 No.55

特集

防災教育

Disaster management NEWS

東京タワーライトアップ

防災シミュレーター

Active Woman

杏

[モデル・女優]

連載

- 間違いだらけの防災対策
- やってみよう! 家具固定



内閣府 (防災担当)
Cabinet Office, Government of Japan

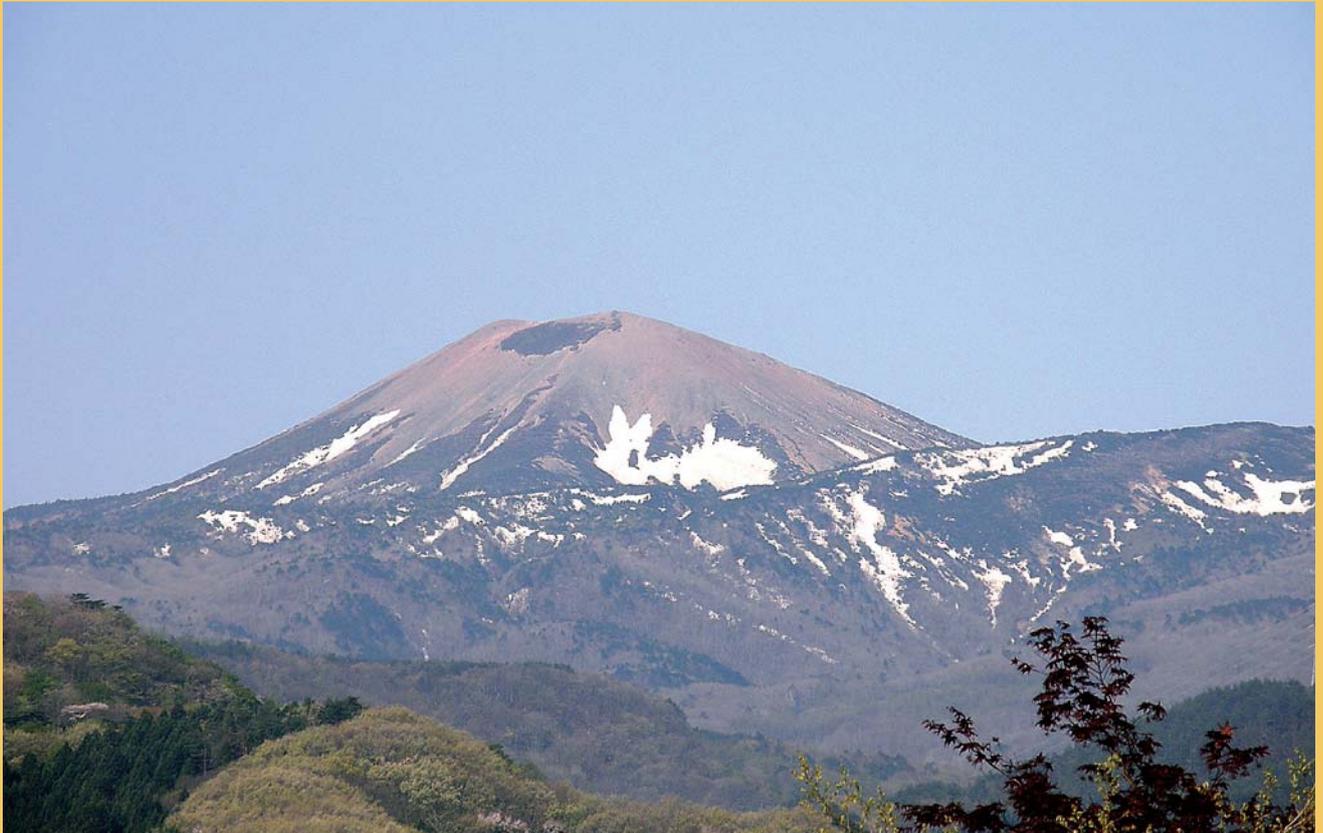
杏さん

日本の 火山 vol.11

福島県・山形県
あづまやま

吾妻山

魔女の瞳と雪うさぎ



「雪うさぎ」の見える吾妻山の吾妻小富士（撮影：新田隆一）

福島と山形の県境、東西25km、南北15kmにある火山群の総称。日本百名山に数えられる。西吾妻火山、中吾妻火山、東吾妻火山に分けられ、噴出の中心は東南東から西北西の南北2列に分かれる。火山活動は南列より北列、西より東が新しい。最高峰、西吾妻山（2035m）山頂北側の天狗岩には吾妻神社が祀られ、修験道の山とされる。

東吾妻火山には東吾妻山、一切経山と吾妻小富士などがある。一切経山は、平安時代に阿倍貞任あべのさだとうが仏教経典集成の一切経を山に埋めた伝説による。有史以降の火山活動は一切経山に限られ、小規模な噴火・噴気・水蒸気爆発などが近年まで起こっている。そのすぐ北にある五色沼は美しいコバルトブルーで、時間や見る場所により変化するため「魔女の瞳」と呼ばれる。吾妻小富士には、早春の雪溶けで、福島県側からは雪の残った部分がうさぎの形に見える「雪うさぎ」が出現する。晩霜の心配がなくなり、農民はこれを見ると苗代に種蒔きを始めていた。雪うさぎは福島市のイメージキャラクターにもなっている。

吾妻山

25km×15kmの火山群。玄武岩、安山岩などの多くの成層火山と単成火山からなる。噴火警戒レベル1（平常）。1月8日現在

ぼうさい 1月号 (No.55)

CONTENTS

2 日本の火山 vol.11 吾妻山 [福島県・山形県]

4 特集

防災教育

— 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻教授 福和伸夫

- ・ 稲むらの火
- ・ 防災教育支援プログラム
- ・ 学校現場の防災教育

12 Active Woman file 11

杏さん [モデル・女優]

14 Disaster Report

新潟県中越地震から5年

16 TOPICS

平成 21年防災功労者表彰受賞団体から

- ・ 泉町三丁目地区連合自治防災会
- ・ 特定非営利活動法人にいがた災害ボランティアネットワーク

18 間違いだらけの防災対策 第2回 災害イメージング能力の重要性

— 東京大学生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター長 目黒公郎

19 やってみよう! 家具固定 第2回 家具固定の際の注意点

— 全日本地震防災推進協議会会長 岩瀧幸則

20 Disaster management NEWS — 防災の動き

- ・ インド洋大津波から5年
- ・ 平成 21年度原子力総合防災訓練を開催
- ・ 「防災とボランティア週間」の東京タワー防災推進ダイヤモンドヴェール

24 内閣府「防災シミュレーター」

26 過去の災害に学ぶ(26)

1923年9月1日関東大震災 その3

— 関西学院大学総合政策学部教授 室崎益輝

28 防災リーダーの素顔 第5回

特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード 蓮本浩介

29 非常食を食べる

30 日本の知恵を世界に 第5回 まち歩きワークショップ

— 国連地域開発センター防災計画兵庫事務所研究員 斉藤容子

31 シリーズ 一日前プロジェクト [第11回] もし、一日前に戻れたら…

32 「防災絵本」を見る

33 防災 Q&A

自主防災活動を地域住民と継続していくためには、どんな工夫をしたらいいでしょうか?

— 水俣市第3区自治会防災防犯委員会 久木田一也

34 記者の眼 共同通信社内政部記者 奥田有一

35 第24回防災ポスターコンクール 受賞者の声 岩川 萌さん スケジュール



防災教育

特集

「防災教育」としても、「これまで学校などで防災教育を受けたことがあるか」の質問には、多くの人が「避難訓練をやった程度」としか答えない。もちろん、学校や地域、職場などで熱心に取り組んでいるところ、家庭によってはかなりの備えをしているところもあり、一概にはいえないが、他の教科の「教育」に比べて明らかに少ないだろう。

首都直下地震、東海地震、東南海地震、南海地震の危険性が指摘されながら、いまだ遅々として根本的な防災対策が市民レベルで講じられていないことをみると、その改善に大きな役割を有すると思われる防災教育を検証する必要があるのではないか。

今回は防災教育の現状と課題について、名古屋大学の福和伸夫教授とともに考える。

防災教育とは

防災教育は、究極的には命を守ることを学ぶことであるが、そのためには、災害発生時の理屈を知ること、社会と地域の実態を知ること、備え方を学ぶこと、災害発生時の対処の仕方を学ぶこと、そして、それを実践に移すことが必要となる。

文部科学省では、学校における防災教育のねらいを、一つ目は「災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができるようにする」、二つ目は「災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようにする」、三つ目は「自然災害の発生メカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解できるようにする」としている。

厳しい現実

周知の通り、阪神・淡路大震災では、家屋の中で亡くなられた方は死者の約9割にのぼり、倒壊家屋などに閉じ込められた住民のおよそ8割が、近隣の住民によって救助されたといわれている。このため震災後は、防災対策における「自助」「共助」に、特に強く注目が集まることになった。

た。災害時のみならず、平時から、それぞれが自らの住まいの耐震性を高めたり家具の固定をすることにも、防災訓練へ参加して近隣住民との協力関係を築くことなどが求められている。

しかしながら、実態は厳しいものがある。平成19年の内閣府特別世論調査では、家具固定をしている人は全体の4人に1人程度、家の耐震化をしている人に至っては、10人に1人程度だ。

もちろん、この状況の原因をすべて防災教育に帰することはできない。耐震化には相当の経済的負担とともに、かなりの手間もかかるものであり、容易ではない。意識が高くても、さまざまな事情により「行動」に移



防災訓練で机の下に避難する県立聾学校の子どもたち
(写真提供：三重県教育委員会)

せないという面もある。しかし、一方で家具固定はどうだろうか。家具固定も、間柱への固定など技術上の面倒さや、賃貸住宅の場合、原状回復義務との関係で困難になるなど、一定の支障は生じるが、それでも、費用・手間の面では、耐震化工事よりは圧倒的に容易であり、対策を行うか否かはもっぱらその住民の意思次第であるともいえる。

この家具固定率も、都道府県によりかなり異なるが、上記内閣府の調査では、静岡県では60%を超えている。平成21年8月に発生した駿河湾を中心とする地震(最大震度6弱)では、地震の規模に比して被害が相対的に小さかったといわれる。これは、子どもの頃からの防災教育により、静岡県の住民が普段から適切な備えを行っていたことと、けっして無関係ではないと考えられる。

やはり、いかに個々人の意識を高め、そして具体的な対策を住民にとってもらうか、そのために有用な防災教育とは何かを真剣に考えるときである。

防災教育の現状

〔学校現場〕

まず、学校現場におけ

る防災教育をみてみよう。もちろん、他の教科と同じく、学習指導要領の枠内で行われているが、「防災教育」という特定の教科があるのではなく、さまざまな教科の中で、防災の狙いに沿った要素を入れて防災教育が進められている。たとえば、地域の安全に役立てるための1つの知識として消防署や消防施設のあり方などを社会科で、自然災害の発生メカニズムを理科などで、また、安全な行動を身に付けさせるため、こういったときにけがをしやすいのか、そのためにどんなことに気を付けたいかなどを体育や特別活動・安全指導の時間に教えている。

このような学習のため、文部科学省からは防災教育についての教材が各学校に配布されている(小学校・防災教育教材パネル『考えようわたしたちのいのちと安全』)といった『、中学校・高等学校・防災教育教材パンフレット』『防災は自分自身の手で』『防災について考えよう』、小学生用・中学生用・防災教育教材(CD-ROM、

DVD)『災害から命を守るために』、小学校教職員用・学校安全資料(DVD)『子どもを事件・事故災害から守るためにできることは』。

学校現場では、平成10年に「総合的な学習の時間」を設け、それにより理科や社会という既存の教科ではない形で防災教育を取り上げることが可能になったが、総合的な学習の時間は、ほかにも消費者教育、金融教育、法教育、環境教育など、さまざまな分野から大きな期待・要請を受けている。

大地震に備えた対策(平成17年、平成19年)

(単位：%、平成19年特別世論調査)

対策	平成17年	平成19年
携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している	49.2	58.9
食料や飲料水を準備している	25.6	36.0
近くの学校や公園など避難する場所を決めている	28.7	33.5
いつも風呂の水をためおきしている	21.5	27.6
家族との連絡方法などを決めている	19.3	25.6
家具や冷蔵庫などを固定し、転倒を防止している	20.8	24.3
消火器や水を張ったバケツを準備している	23.3	24.0
貴重品などをすぐに持ち出せるように準備している	20.3	23.1
非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している	11.0	14.3
防災訓練に積極的に参加している	8.1	12.5
自分の家の耐震性を高くしている	6.5	10.9
耐震診断を行い、自分の家の危険度を把握している	3.2	4.8
ブロック塀を点検し、倒壊を防止している	3.3	4.7

【さまざまな場における防災教育】

一方で、いうまでもなく、防災教育は学校教育に限ったものではない。対象も子どもたちに限っているものでもない。むしろ、学校現場以外の、家庭、地域、職場などでも、多くの取組が行われている。

災害時の行動は、まさに命を左右するものとなるから、家庭では、緊急地震速報への対応、避難所の確認、災害時の連絡方法の確認（とりわけ「災害用伝言ダイヤル（171）」の利用方法の確認、非常用食料などの備蓄が行われているのが常であり、その過程で家族間でのコミュニケーションが図られる。また地域では、ほぼ例外なく防災訓練が町内会・自治会などの主導で実施されているほか、防災用品の配布、小規模の勉強会、講演会も地域により実施されている。また職場でも、避難訓練の実施や、企業によっては従業員に帰宅支援マップや防災用品の配布、災害時の連絡・参集方法の確認を徹底しているところもある。

また、防災ポスターコンクール（内閣府、防災推進協議会）、防災教育チャレンジプラン（防災教育チャレンジプラン実行委員会）、ぼうさい甲子園（兵庫県、毎日新聞社、財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構）、小学生の防災探検隊マップコンクール（日本損害保険協会、朝日新

聞社、ユネスコ、日本災害救援ボランティアネットワーク）など、児童・生徒を対象とした多くのコンクール形式の行事も実施され、高い教育効果を上げている（九頁参照）。

明るい兆し？

防災教育をめぐる環境の変化 「工夫をこらした防災教育の出現」

防災教育といえば、これまで、画一的な避難訓練が中心であったが、近年、さまざまに趣向を凝らしたものが行われている。

まず、防災イベントでは、参加者に楽しみながら防災知識を身につけてもらう工夫として、D I G



親と子の建築講座（写真提供：福和伸夫）

(Disaster Imagination Game)、H U G (Hinzanyo Urei Game)、クロスロード（災害対応カードゲーム教材）、ぼうさいダック、ぼうさい駅伝、ぼうさい塾などが開発され、多くの市民が体験している。また、A E D 体験、炊き出し体験、防災クイズ大会、消火器訓練、起震車体験、まちの防災マップ作り、ワークショップなどが、多くの参加者を得て行われている。実際にそれらに参加した者とそうでない者では、当然ながらその後の認識の度合いに大きな差が出る。

次に、コンテンツ（教材）として、各種DVD（『幸せ運ぼう』など）、振動教材（ぶるる）、防災かるた、防災・防犯わらべ唄、防災の寸劇、震災体験集（一日前プロジェクト）などが提案されている。このうち「ぶるる」は、体験型の耐震実験模型の総称で、なかには簡易な紙のものもあり、建物の揺れを再現し、耐震性のある建物作りの基礎を教えることができるため、特に子どもたちに好評を博した。さらに、防災教育のカリキュラムとしては、総合的な学習の時間を通し



愛知県教育委員会による高校生防災セミナーでのKJ法のワークショップ（写真提供：福和伸夫）



ビジュアル教材「幸せ運ぼう」

での学習や、既存の教科を組み合わせたカリキュラムの提案なども示されているが、特にユニークなものとして和歌山県田辺市の新庄中学校で

「稲むらの火」

津波の教訓を伝える物語

稲むらの火

日本の防災教育のなかで、注目されるのは、「稲むらの火」である。これは、1854年の安政南海地震津波の際に、和歌山県広川町で濱口儀兵衛（梧陵）が人々を率いて高台に逃げたというエピソードを、『怪談』で有名な作家、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）が記述し、中学校教師だった中井常蔵（明治40～平成6年）が翻訳・再話したもので、その後文部省の国定国語教科書に採用され、昭和12年から22年までの間、「稲むらの火」として掲載された。

物語の概要は、次のようなものである。高台に住んでいた主人公の五兵衛は、長くゆったりとした揺れと、うなるような地鳴りを感じ、外に出て村を見下ろす。しかし村では、豊年を祝う宵祭りの支度で心をとられ、地震にはまったく気がついていない。

一方、海を見ると、波が沖へ引き、海岸には砂原や黒い岩底が現れる。五兵衛はすぐに「大変だ。津波がやってくる。このままだと村人が皆、飲み込まれてしまう」と感じ、松明を持ってきて、刈り取ったばかりのたくさんの稲束に火をつけた。

この火を見た村人は、その火を消そうと、皆かけ上がってきた。彼等はすぐ火を消そうとするが、五兵衛は大声で「そのままにしておけ！」と叫ぶ。そのうち、はるか沖から非常に大きな津波がやってきて、荒れ狂うように、村をひと飲みにしてしまった。村人はようやく、この火によって助かったことに気づく。

防災に貢献した歴史的人物

この話は、1854年（安政元年）の安政南海地震津波のときに、和歌山県広川町で起きた史実に基づいている。モデルとなった濱口儀兵衛は、実際は30代の商人で家は町中にあり、燃やしたのは脱穀を終えた藁の山だった。火をつけたのも津波が来てからで、闇の中で村人に安全な避難路を示すためだった。しかし、儀兵衛は津波の後も巨額の私財を投じ、海岸に高さ約5m、長さ約600mの防潮堤（広村堤防）を築造し、それによって、約90年後の昭和19年～21年の東南海地震・南海地震の津波では、村の居住地区の



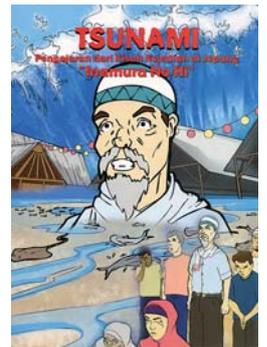
インド洋津波によりインドネシアで家の上に乗った船
（写真提供：（財）日本国際協カシステム）



ベンガル語版『稲むらの火』

大部分が守られた。

その後、この『稲むらの火』は、2004年のスマトラ沖地震・インド洋津波災害のときに再び注目され、日本の支援で、アジアハカ国など、海外でも翻訳されて広まっている。なお現在は、津波のときには、必ずしも潮が引くとは限らないという注釈がついている。



インドネシア語版『稲むらの火』



和歌山県有田郡広川町の「稲むらの火の館」



親子の建築講座で教材「ぶるる」の実験（写真提供：福和伸夫）

の例がある。国語では地震の紙芝居の作成、社会では地震史と津波用立地地図の作成、数学では津波到達時間の計算、理科では地震メカニズムの学習、美術では避難所の看板作成、保健体育では応急手当の学習、技術家庭では意識啓発パンフレットの作成と防災対策の実践、英語では世界の地震の学習など、すべての教科を使い総合的に防災教育を実施している。このような多様な形で取り組むにより、従前と異なり格段に効果的な防災教育となっている。

【学習指導要領の改訂と防災関係記述の増加】

学校現場の教師にきわめて大きな影響を及ぼす「学習指導要領」について、政府は平成20年3月、平成10年以來の改訂の内容を告示した。今回は「生きる力」を育むという学習指導要領の理念のより一層の実現のため、具体的な手立てを確立する観点からの見直しがされている（平成23年に小学校、平成24年に中学校で完全実施）。

このなかで、防災教育にかかわる記述についても、いくつかの内容が追加・修正され、強化が図られた。中学校の保健体育では、これまでの記述に加えて「自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること」が新たに追加され、より「備え」の重要性を強調する記述となった。

また、小学校の社会科では、3、4年生で「関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること」という一文が入るとともに、5年生では、環境の保全という目標に加えて、「自然災害の防止の重要性」も新たに加えられることになった。

以上のように、学習指導要領の上

では、防災教育の体制の「充実が進められた」ことは事実であり、まずは大きく前進であると評価できる。しかしながら、これまでの避難訓練を中心とした学校現場での取組をみると、実際に真に「防災」に有用な教育が行われるかどうか、懸念なしとしない。まさにそれぞれの教師の経験、意識、熱意によって大きく変わってくるものと考えられる。

防災教育は特別なものか

【専門家だけのものであってはならない】

前述のように、防災教育のさまざまな行事・取組には、多くの子どもたち、家族、そし

新しい学習指導要領（実施：小学校／平成23年、中学校／平成24年）における防災教育の内容の充実（主なもの）

改訂後	現行
<p>【小学校3、4年生（社会）】</p> <p>(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。</p> <p>ア 関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること。</p> <p>イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。</p> <p>【小学校5年生（社会）】</p> <p>(1) 我が国の国土の様子、国土の環境と国民生活との関連について理解できるようにし、環境の保全や自然災害の防止の重要性について関心を深め、国土に対する愛情を育てるようにする。</p> <p>【中学校（保健体育）】</p> <p>(3) 傷害の防止について理解を深めることができるようにする。</p> <p>ア 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などがかわって発生すること。</p> <p>イ 交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。</p> <p>ウ 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。</p>	<p>【小学校3、4年生（社会）】</p> <p>(4) 地域社会における災害及び事故から人々の安全を守る工夫について、次のことを見学したり調査したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々の工夫や努力を考えるようにする。</p> <p>ア 関係の諸機関が相互に連絡を取り合いながら緊急に対処する体制をとっていること。</p> <p>【小学校5年生（社会）】</p> <p>(2) 我が国の国土の様子について理解できるようにし、環境の保全の重要性について関心を深めるようにするとともに、国土に対する愛情を育てるようにする。</p> <p>【中学校（保健体育）】</p> <p>(3) 傷害の防止について理解を深めることができるようにする。</p> <p>ア 自然災害や交通事故などによる傷害は、人的要因や環境要因などがかわって発生すること。また、傷害の多くは安全は行動、環境の改善によって防止できること。</p>

「防災教育支援プログラム」

内閣府・民間が行う支援プログラム～

防災ポスターコンクール

内閣府は、毎年の防災週間行事の一環として、一般から広く防災に関するポスターデザインを公募することにより一層の防災意識の向上を図るため、防災ポスターコンクールを行っている。平成21年度で25回目を数えるが、「幼児・小学1～4年生の部」「小学5・6年生の部」「中学生・高校生の部」「一般の部」の4部門で、合わせて7,000点近い応募があった。



防災ポスター

防災教育チャレンジプラン

全国の学校や地域で取組まれる防災教育を推進するための新しい企画・取組を1年間サポートするもの。企画の準備・実践のための経費、担当実行委員による相談などの支援を行う。公募で選ばれた企画は1年間の結果を中間報告会とワークショップで発表し、アドバイスを受け、防災教育大賞、優秀賞、特別賞が授与される。防災教育チャレンジプラン実行委員会の主催で、内閣府を始めとする各省庁、各団体などの後援で実施。平成21年度は選出された9件が進行している。



平成21年の防災チャレンジプラン実践団体、滋賀県立彦根工業高等学校 都市工学科によるかまどベンチづくりの展示物

ぼうさい甲子園(1.17防災未来賞)

学校や地域で防災教育に取り組む子どもや学生を顕彰するもの。毎日新聞社が兵庫県、(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構との共催で行っている。小学生、中学生、高校生、大学生の4部門で、応募は学校、ク



ぼうさい甲子園の活動写真

ラス、サークル活動、ボランティア活動、地域など。応募する学校や団体の取組は、福祉、環境問題、街づくりなどさまざままで、表彰式とともに活動成果の発表会も行われる。

小学生のぼうさい探検隊マップコンクール

子どもたちが楽しみながらまちの防災、防犯、交通安全の施設や設備などを見て回り、地図にまとめて発表する安全教育プログラム。地域への関心が子どもたちから広がり、防災・防犯・交通安全への意識の高まりや、安全で安心な地域社会の強化へつながることを目的とする。平成16年度に始まり、平成21年度は297校・団体から1,389作品の応募、約1万人の小学生が参加した。(社)日本損害保険協会が朝日新聞社、ユネスコ、NPO法人日本災害救援ボランティアネットワークとの共催で行っている。



ぼうさい探検隊のまち歩き



ぼうさい探検隊マップコンクールで防災担当大臣賞を受賞した徳島県三好市立佐野小学校の防災マップ

「学校現場の防災教育」

三重県教育委員会による推進

教材と出前授業

三重県教育委員会は、平成16年度から積極的に防災教育を推進している。教材としては、防災教育用プレゼンテーション教材、地震防災ガイドブック『大地震・津波「自分の命は自分で守ろう」』、防災教育副読本『あしたのために』、防災教育ビデオなどを作成して県内の小中高校、特別支援学校に配布するとともに、「学校における地震防



防災ガイドブック『大地震・津波「自分の命は自分で守ろう」』

災の手引』を発行している。

出前授業では、地震・津波のメカニズムや平常時の備え、地震発生時の行動などを説明し、液状化現象や、耐震補強、家具転倒防止の実験も行う。平成21年度は、高等学校を中心に、10校で阪神・淡路大震災の語り部による講演を実施し



防災教育ビデオ『証言・巨大地震と災害』

防災教育推進校とベストプラクティス

さらに、防災教育を積極的に推進する小中高校、特別支援学校を「防災教育推進校」として募集している。平成20年度は29校が推進校となり、三重県教育委員会と三重県防災危機管理部などにより、地震体験車、防災講話、子どもたちが避難所や安全な場所を知るタウンウォッチング、防災マップづくりなどの支援が行われ、それぞれの学校の創意工夫で避難所体験、救命講習などが実施された。推進校の中から「ベストプラクティス」を顕彰しているが、平成20年度は県立聾学校だった。

県立聾学校は津市の避難所に指定され、東海・東南海・南海地震の際には津波の襲来が危惧されており、地元自治会と



玉城わかば学園の避難所体験



小学校での防災マップづくり

合同で津波を想定した避難訓練を実施した。また、子どもと保護者が人形劇団「デフ・パペットシアター・ひとみ」の人形劇で津波について学んだ。訓練に参加した地域の方からは、「近所にいながら未知の世界。いろいろなことがわかった」「協力して避難することの大切さを感じた」、人形劇『稲むらの火』を見た生徒からは、「五兵衛が稲むらに火をつけて津波を知らせたのはグッドアイデア」などの感想があった。



県立聾学校の屋上で津波災害訓練で避難した人々

学校災害図上訓練と研修

三重県教育委員会は、平成19年度に学校を舞台にした図上訓練を開発し、希望する学校で実施している。それぞれの学校に応じた被害想定をもとに図上訓練を行うことで、学校の防災体制を検証し、教職員の防災意識向上を図っている。さらに、学校防災指導者研修、新任校長・教頭研修、初任者研修などを行うとともに、平成20年度には、すべての県立学校に、校内放送と連動した緊急地震速報システムを整備した

て指導者などが「参加者」となっている。これらの人たちは皆、防災に対する非常に高い熱意をもち、防災を心から願う人ばかりである。ただ、一方で、その参加者の数をはるかに上回る「非」参加者が存在する。そのような人たちは、そもそもそのような行事、または教材の存在すら知らないことがほとんどだろう。そして「参加者」にも「非参加者」にも、災害というのは等しい確率で、ふりかかってくる。防災における自助・共助の重要性がますます認識されてきている今日、防災という分野に限っては、誰か特定の一部のリーダー・専門家さえ高い知識・認識を身につけていればいいというものでは決していない。

【日常の中に防災を取り入れること】

防災教育の環境が徐々に整備されてきているとはいえ、これまでの取組を続けていくかぎり、現在の状況を大きく打開していきけるかは疑問である。それだけでなく現代人は忙しい。災害は、発生したら甚大な被害を及ぼすものであるが、いつ来るともわからないものに対して、「ただでさえ仕事や家事で忙しいのに無用なエネルギーなど使っていないらるか」というのが（行動をしない人の）率直な気持ちだろう。確かに、日常忙しいなかで、家を耐震化したり、避難場所を確認したり、訓練に参加

したり、というのは面倒で困難な面もある。その効果を実感しにくい防災対策のために、日常の中での必要な行動に使っている時間を削らなければならぬからだ。あるいは、耐震化のように、かなり高額な費用がかかるものもある。

そのような人たちに、ただ、「大地震が来たら危ない。早く対策を」とお題目のように唱えても、重い腰を上げてくれるかどうか、かなり疑問である。それを打開するには、「やりやすい・気軽な」「コストがかからない」「楽しい」という要素が一つのカギになるのではないか。重要なのは、高い熱意・志を持った人たちと、普段あまり関心がない人たちとの協働である。特に関心がない人たちにとっては、声高に「防災」といって入らせられるのではなく、日常の生活の中で、ほんの少しずつ防災の要素を取り入れることができるように、有識者や地域の防災リーダーがサポートしてあげること、これが近道になる可能性はないだろうか。

それは、教師についても当てはまる。防災教育のための最大の人的資源である教師こそ、最も災害の危険を理解し実感していただきたい職種であるが、その教師に防災教育を「特別なこと」と受け止められてしまっただけで、「防災教育は難しい」という反応が出てくるだけである。教師が

気軽に、しかし正確に防災に必要な知識を理解し、そして日常的に子どもたちに伝える、ということが可能にするような環境を整備することが肝要である。

以上はすぐに結果が見えるものではないという面もある。しかし、それらの作業を粘り強く、不断に行っていくこと、それこそが、10年後、20年後の日本の防災力を高めることになっていくのではないだろうか。

今後に向けて

最後に、防災教育の今後に向けた課題などについて、福和伸夫名古屋大学教授にお話を伺った。

「気候温暖化と地震活動期のなか、風水害と大地震の頻発が懸念されています。この災害に巻き込まれるのが子どもたちです。我が国は、豊かさを獲得するなかで、人間や社会を災害に脆くしてきました。この社会を持続するには、予見できている災害被害を減らし、私たち自身が災害に負けない力をも身につけるしかありません。

家庭や地域のなかで当たり前のように伝えてきた「生きるための知恵」が、核家族化や地域コミュニティ喪失、自然との距離などにより、子どもたちに受け継がれていません。本来、家庭や地域で教育すべきことですが、学校教育における教科学習偏

重も、子どもたちの心・技・体の力を蝕んでいます。

災害に負けない社会にするには、一人ひとりが当事者意識を持ち、正しく自然を恐れ、人間活動が災害を生み出すことを理解したうえで、生き方や住まい方を見直し、互いに助け合う心を身につける必要があります。既存教科で学んだことを総合的に体得して生きる力へと昇華し、生活実践へと結びつけること、それが防災教育です。

現代社会に生きる我々大人の責務は、次世代に迷惑をかけることなくです。そのためには、災害軽減の努力をすることともに、子どもたちの「生きる力」を育んでいく必要があります。」



名古屋大学大学院環境学研究科
都市環境学専攻教授

福和 伸夫

ふくわ のぶお ●1979年名古屋大学工学部建築学科卒。1981年同大学院工学研究科博士課程前期課程修了。1981年清水建設(株)、1991年名古屋大学工学部助教授、1997年同先端技術共同研究センター教授、2001年環境学研究科教授。2003年日本建築学会賞、2007年文部科学大臣表彰科学技術賞、2008年日本建築学会教育賞、地域安全学会技術賞などを受賞。共著に「防災でも元氣印、恐るべし名古屋、その仕掛け人たち」など。

お祭りなどに参加して交流する それも防災につながります

モデル・女優

杏さん



15歳からモデルとして活躍し、パリ・コレクションなどの大舞台に立ち、いまは女優としても活躍する杏さん。昨年話題となった、歴史を愛する「歴女」の代表格であり、時間を見つけて各地を訪ね歩き、歴史ドラマにも出演しています。また、読書家でもあり、雑誌、WEBでの執筆活動やFM放送でパーソナリティを担当するなど、多彩に活躍しています。

あん ●モデル、女優。15歳から雑誌モデル、平成17年からパリ・コレクションなどでファッションモデルとして海外で活躍し、18年、『Newsweek』誌の「世界が尊敬する日本人100人」に選ばれる。平成19年からは女優として活動。ドラマ『天国と地獄』『華麗なるスパイ』『天地人』『サムライ・ハイスクール』、映画『櫻の園』やCMなどに出演。読書家で書評を手がけ、筑摩書房のサイトやFMラジオで本やエッセイの連載など、執筆家としても活躍している。映画「BANDAGE」公開中。またドラマ「泣かないと決めた日」出演中。



杏

さんは、モデルや女優の仕事で大変なのは、意外なことに「寒いこと」だという。

また、「自分がどういう役なのか、その中味を考えます。自分が表現したことが世に出てしまう仕事だから、何をどう伝えるかをよく考えないといけないと思うんです」と話す。

昨年は、歴史が大好きな女性を指す「歴女」が流行語となったが、杏さんは流行語大賞の受賞式にも、歴女の代表として招かれている。本人も自認する歴史好きだ。これまで読んだ歴史の本は数知れない。仕事で全国を歩くが、時間を見つけては各地の史跡、神社・仏閣を訪れる。その

ときに、災害に関係するものを目にすることもある。

「吉田松陰の松陰神社（東京都世田谷区）に行った際、昔の消防車、火災報知機、防火扉、火消しなどを見つめました。また、名古屋城のシャチホコも見ましたが、火除けの守り神として設置されていると聞きました」

昨年は伊勢神宮にも行く機会があったが、その直前、台風18号が通過した。巨大な御神木が倒れているのを目のあたりにし、自然の力を感じたともいう。

杏さんは、FMのJ-WAVEで、土曜夜の番組「ASAHISHIMBUN BOOKBAR」のナ

私はポジティブなメッセージを伝えていきたい

ビゲーターとして、書評を行っている。これまで数多くの書籍を紹介しているが、昨年は、かつて阪神・淡路大震災の起こった同じ1月17日に、自ら選んだ『地震イツモノー』(地震イツモプロジェクト)を紹介し、また、震災を

歌った『満月の夕』を流した。防災に対してどのように考えているか尋ねたところ、自然体の彼女らしい答えが返ってきた。

「防災というと、一歩引いて、気合いを入れてやらなければならぬような印象があります。もちろん大切ですが、それに加えて、日常の中で行っていることに目を向けて、そのことが自然と防災につながることも大事だと考えています。たとえば、楽しみながら地域の活動に参加して体を動かすこと、日頃から地域の人と交流すること、家族でキャンプに行くとか散歩をすること。それが災害に負けない体力、お互いのコミュニケーション、避難経路を知ること

に役立ちます。そういう意味では、お祭りに参加することも大切で

待てそう。



『泣かないと決めた日』に出演している杏さん（フジテレビ系毎週火曜夜9時～放送、写真提供：フジテレビ）

ね。人を助けるのは人なんです」

1月からの映画『BANDAGE』やドラマ『泣かないと決めた日』ではこれまでと違う役柄に挑戦している。これまでもと違う役柄に挑戦している。「本の紹介も含めて、多くの人に何かを伝えられるのですから、そのなかで、ポジティブなメッセージを伝えていければと思っています」

秋にはミュージカル『ファントム』で、オペラを歌う役に挑戦する。多彩な才能を生かし、さまざまな活躍が期待できそう。

新潟県中越地震から5年

新潟県

国内災害レポート

平成16年10月に発生した新潟県中越地震
 その後も大きな地震に見舞われました。
 5年を経た現在の復興状況を報告します。



長岡市濁沢町（長岡市提供）



長岡市妙見町

被害の概況

平成16年10月23日17時56分頃、最大震度7の地震が発生し、新潟県内において人的被害は死者68人、重軽傷者4795人、住家被害は全壊3175棟、大規模半壊2167棟、半壊1万1643棟、一部損壊10万4619棟となりました。

また、この地震により、新幹線が国内で初めて脱線したほか、高速道路など多くの幹線道路が被災しました。

被災地の多くを占める中山間地域では、激しい揺れで地盤が崩壊したため、道路が寸断され、多くの孤立集落が発生しました。特に旧山古志村では長岡市内へ、自衛隊などのヘリコプターで全村民が避難をするこ
 とになりました。

小千谷市との境にある長岡市妙見

町では、県道を走行中の自動車が崩落した土砂に巻き込まれ親子3人が生き埋めとなりましたが、東京消防庁のハイパーレスキュー隊を始め全国でも精鋭の消防隊員の活躍により、発災から約92時間後に奇跡的に男の子が救助されました。

また、この地震により首都圏との主要道路が寸断されたこともあり、新潟県内各地の観光地では、直接の地震被害がほとんどなかったところでもキャンセルが相次ぎ、大きな打撃を受けました。

避難生活について

被災直後から開設された避難所は、最大で603箇所で、10万人を超える方が自宅から避難をしました。

新潟県は雪国であり、降雪前の避難所解消に向け急ピッチで応急仮設住宅の建設を進めたところ、12月14日から順次入居を始め、年内には避難所を解消することができました。

応急仮設住宅の入居にあたり、同じ集落の方がまとまって入居できるような配慮がなされ、国内の災害では初めて仮設のデイケアセンターも設置されました。

住宅の再建

現在、インフラの復旧は終了し、最大で約9600人の方が入居された応急仮設住宅の入居者の皆様も平成19年末にはすべての方が退居されています。

また、住宅の再建では、鉄筋コンクリート建ての公営住宅のほか、中山間地域の特性に配慮した木造分散型の公営住宅などの整備や、防災集団移転促進事業なども活用して、故郷での生活再建や新天地での新たな生活が始まっています。

復興に向けて

新潟県中越地震での特徴として、ボランティア元年といわれる阪神・



中間支援組織による地域復興交流会議

淡路大震災からボランティアの活動が発展し、行政と地域の間に入って活動をコーディネートする中間支援組織が育ち、今では地域復興支援員による持続可能な地域社会を目指した取組が進められています。

そのほか、若いお母さん方が中心となった、被災地の子どもたちや高齢者の方々をはじめとする多世代の交流活動も活発化しています。

また、長岡市山古志地域（旧山古志村）の中でも、河道閉塞により水没した木箆集落など、大きな被害を受けた6集落では、集落再生計画が策定され、集落移転などを含む新しい集落づくりが行われました。

そして、長岡市小国法末地区、小千谷市東山地区など多くの集落で

は、地域の特性を活かした集落コミュニティの維持・活性化に向けた取組や、被災した時に支援いただいたボランティアの方々との交流が続いています。

そんな交流の場から、復興に向けた求心力・シンボルとなるような「地域の宝」を一緒に発見し、また、都市にお住まいの方々とさらなる交流の場として、古民家再生や棚田保全、農家民泊の実施、郷土料理の提供など、復興の芽が始めています。

また、「防災グリーンツーリズム」を提唱し、首都圏の人々と県民が日頃からグリーンツーリズムを通じた「顔の見える」交流を深めることにより、新潟を「第2のふるさと」としていただき、首都圏で災害が発生した場合に、被災経験があり、被災者ケアのノウハウを有している新潟にスムーズに避難していただくための取組を進めております。

復旧・復興の検証と経験発信

これまでの復興プロセスと復興支援策を客観的に評価するため、国内の災害復興研究者による「復興評価・支援会議」が平成21年3月に設置さ

れたことから、この会議による外部評価を今後の復興への取組に反映させていくことにしています。

また、新潟大学災害復興科学センターと連携して、調査研究を行うとともに、長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡大学の3大学などが中心となって設立された社団法人中越防災安全推進機構などで、被災資料の収集、地域復興に関する調査研究や普及活動の取組を行っています。

全国の皆様へ

新潟県は、平成16年の中越地震に続き、3年を経ずに再び大きな地震に襲われました。この平成19年中越

そんな中、全国の皆様から数々の御見舞いや励ましをいただき、また、ボランティアとして被災者と一緒になって汗を流していただいたこと、さらには被災者のために多くの義援金をお送りいただいたことは、県民一同にとつて復興への大きな励みとなりました。

改めて全国の皆様からの多大な御支援に心から感謝申し上げます。

新潟県では、2度の地震で受けた被災経験や教訓を全国にお伝えするとともに、被災地ならではの経験や教訓を活かした活動を展開するなど、御恩返しをしてみたいと考えております。



上：全国の皆様との交流 下：復活した牛の角突き

トピックス TOPICS

平成21年防災功労者 表彰受賞団体から

平成21年防災功労者表彰受賞団体から、内閣総理大臣表彰の泉町三丁目地区連合自治防災会と、防災担当大臣表彰の特定非営利活動法人にいがた災害ボランティアネットワークの活動内容を紹介します。

泉町三丁目地区連合自治 防災会(東京都国分寺市)

泉町三丁目地区連合自治防災会は、昭和58年に東京都国分寺市泉町三丁目地区の10自治会が連合して設

TOPICS



11月の防災コンクール

立されました。そしてその翌年には、防災まちづくり推進地区となり、「後世に誇れる安全で快適なまちづくり」を目指し、日ごろから地域防災活動を積極的に推進しています。

この会の「総務部」「環境改善部」「情報連絡部」「防火対策部」「救出救護部」の専門部では、危険箇所・消防設備の点検、防災計画、災害時要救出名簿、防災用倉庫・資器材の整備などを進めています。

一方、昭和59年からは月1回以上、「泉町三丁目防災ニュース」を発行し、身近な防災情報、国内外の災害の教訓の掲載や、消火器・火災警報器の共同購入、地域住民の防災意識の啓

発を行っています。

さらに防災コンクール、防災訓練、親子防災映画会など住民参加の取組を25年以上、続けています。「防災コンクール」は各自治会から代表者を出し、消防署に考えてもらった救出・介助、担架・搬送、初期消火など災害時に行う活動をゲーム感覚で競うという、ユニークな防災訓練です。地域内の児童館と共同の親子防災映画会、初期消火訓練や地震体験も行っています。

児童館の子どもたちが参加する防災館の体験学習会や、祭りのときも子どもたちに防災の知恵を紹介しています。また、日本赤十字社の献血



8月の体験学習の地震体験



JICAの研修で途上国の人々に防災コミュニティの取組を紹介

に協力したり、応急救護講習会を実施し、会員たちが、町内の環境点検などで安全・安心なまちづくりを実施しています。

災害時の要援護者対策として「災害時に助けが必要」と申請のあった方々を訪問し、いざというときに地域で安否確認・救出できる体制を整えています。

毎年、JICA（独）国際協力機構の海外からの研修者を受け入れ、途上国の人々にコミュニティづくりを基にした防災の取組を紹介しています。

特定非営利活動法人にいがた 災害ボランティア ネットワーク

平成16年、新潟県は7月13日に集中豪雨、10月23日には中越地震に見舞われました。そのとき、県内外から集まったボランティアが膨大で多様なニーズに柔軟に対応したことから、災害ボランティア活動の意義と重要性を再認識しました。

そしてこれらの災害での経験は次世代の財産であり、被災地としての



平成16年7月新潟・福島豪雨災害時、柏崎市災害ボランティアセンターに集まる人々

TOPICS



センターで活動地の説明を受けるボランティアたち

貴重な教訓を生かして将来につなげなければならぬとの思いから、平時の災害ボランティアシステムや共同体としての相互関係を構築する、にいがた災害ボランティアネットワークが平成17年に設立されました。

被災地でボランティア活動に必要な活動資機材を平時から備蓄し、被災地に貸与するレスキューストックヤード事業では、三条市に10トントラック1台分の資機材をストックしています。そして、災害発生初動時の情報収集を行う災害先遣隊の派遣、災害ボランティアセンター立ち上げなどに必要な人材の派遣、ボランティアなどの養成講座や啓蒙活動などの人材育成、情報収集と発信と、ネット

ワーク化などの事業を行っています。

平成17、18年度は、中越地震の被災地、長岡市川口町に対し除雪機械や活動用機材の貸与、台風第14号の被害を受けた宮崎市と高知県四万十市の災害ボランティアセンターに救済資機材を送りました。

また、旧山古志村、三条市の仮設住宅の引越し、梅雨前線による豪雨の長野県の被災地、平成19年能登半島地震による石川県の被災地などへ人材派遣を行いました。各地で行われるボランティアなどの養成講座や研修などにも講師を派遣しています。そのほか、中越復興市民会議と共催の展示会「震災ミュージアム」や災害ボランティア活動の啓蒙、ネットワーク事業などを行っています。



ボランティアセンターでの炊き出し

災害イメージーション 能力の重要性

第2回

あなたはイメージできますか？

ある自治体の防災関係者は、電車での通勤路上で仮に地震に襲われた場合の30秒後の状況として、次のような記載をしました。

「激しい揺れで電車が止まった。窓から外を見ると多くの家が壊れ、あちらこちらからは煙が見えている。自分は車内のパニックを抑える行動をした……」

みなさんどう思いますか。「防災の専門家と



阪神・淡路大震災で転覆した列車
(写真提供：水藤恒彦)

を、多くの人は経験していると思います。それが、満員電車が脱線したり、客室が台車からはずれて転倒したりするような状況ではどんな事態になるのか。のんきに「窓から外を見れば……」などといった場合ではないことは明らかです。しかし、防災関係者も含めて適切にイメージできない。これが現在の私たちの実態なのです。

次に、このような例はどうでしょうか。津波で人が亡くなる原因で最も多いのは溺死ですが、これは通常の溺死とは違います。波にもま

れ、船や瓦礫などにぶつかって脳震盪を起したり、気絶したり、手足に大きな損傷を負うという状況のなかで溺死してしまうのです。「私は泳げるから大丈夫、泳げないから大変だ」というレベルの話ではないのです。

学生のなかには「俺は水泳部だ」と

か、「サーファーだから大丈夫」なんていうものがいますが、「脳震盪を起こして、腕がちぎれても、スイスイ泳げるのだったら別だけれども、そういう話ではないんだよ」と、教えてあげなくてははいけません。

イメージできる人を 増やしていくこと

人はイメージできない状況に対しての適切な心構えや準備などは絶対にできません。世界各

地の地震被害を見てきた私の考える防災力向上の基本は、発災からの時間経過のなかで自分の周辺で起こる災害状況を具体的にイメージできる人をいかに増やすかに尽きます。

効果的な防災対策は、「災害状況の進展を適切にイメージできる能力」に基づいた「現状に対する理解力」と「各時点において適切なアクションをとるための状況判断力と対応力」がなくてはじめて実現するのです。

すなわち、今やるべきことは、従来の「Aやれ、Bやれ、Cやるな」的な防災教育ではなく、自分の頭で災害状況を考え、その対策を講じることのできる災害イメージーションを向上させることです。自分の周辺で起こる災害状況をイメージできるか否か、この違いは決定的に大きな意味を持ちます。

地震被害の状況を具体的にイメージする能力の向上には、私が提案している災害イメージーションツール「目黒メソッド」や「目黒巻」の利用をおすすめします。発災時の季節や天気、曜日や時刻などの条件を踏まえたうえで、発災からの時間経過のなかで自分のまわりで起こる事柄を具体的に考えて抜き出し、問題点を理解するためのツールです(次号で紹介いたします)。



東京大学生産技術研究所
都市基盤安全工学
国際研究センター長

目黒公郎

めぐろ きみろう●1991年東大大学院博士修了、2004年より現職。「現場を見る、実践的な研究、最重要課題からタックル」をモットーに、ハードとソフトの両面からの防災戦略研究に従事。

家具固定

大地震の際の被害の有無は、家の耐震化だけではなく、家具の固定の状況に大きく影響されます。阪神・淡路大震災では、死亡者の1割、負傷者の46%が家具の転倒によるといわれます。

家具固定の際の注意点

家具の固定に一番ふさわしいのは「壁」

一番ふさわしい場所は壁なのです。

「壁の中」と「金具」に注意

これからご説明する家具の転倒防止対策は、大変重要なことなので、しっかりと覚えてください。
家具を固定するとき、取り付ける場所は大きく分けて「壁」「床」「天井」の3カ所になりますが、住宅の中で最も

さて、壁であればどこでも良いと思つてはいけません。壁の中には「間柱、胴縁」といって、一定間隔で4〜5cmの角材が縦横に入っていますから、必ずそこに取り付けてください。



事例1：転倒防止をしていたが役に立たなかった実例



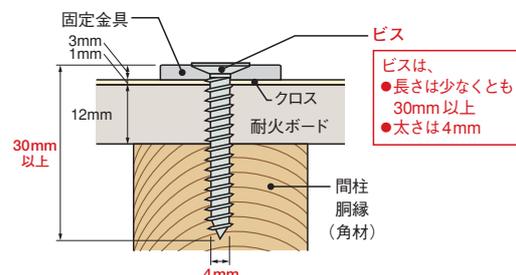
事例2：学校関係者がテレビとテレビ台を固定していたと思われるが、ベルトが引き千切られてしまい、跳んでいます。もし学校が休みでなければ…

強度があるのは壁と床です。天井は日本家屋の場合、古くから吊り天井といわれているように、ただ乗せていて、簡単に止めているだけなので、ほとんど強度がありません。鉄筋のマンションで、梁が通っている場所なら何とかありますが、一般的にみて、家具の固定に一

最近の住宅の壁はほとんどが耐火ボードなので、ボードにビスや釘を打つても、全く効果が得られません。しかも耐火ボードの厚みは約12cmで、固定金具自体の厚みが3mm、ボードに貼り付けてあるクロスが約1mm、合計しますと16mmですから、20mm程度の短

いビスや釘は、全く役に立たないことになりす (図参照)。

使用する固定金具ですが、厚みが3mm以下のものは、激しい揺れ(震度6程度)では曲がってしまい役に立ちませんから、購入時はこの点に気をつけ



ましよう。肝心のビスは、長さは少なくとも30mm以上で、太さ4mmのビスが必要です。壁の中の強度を知るために、壁センサーや下地さがし針でわかりやすく、間違わないように、間柱(縦材)と胴縁(横材)を確認したうえで、しっかりと固定してください。
震災時、室内ではあらゆるものが跳んだり転倒したりします。しっかりと固定しましょう。



岩瀧幸則
いわたき ゆきのり

阪神淡路大震災で被災者となり、屋内対策の重要性を提唱するため、静岡市に移住。ジャパンシステムサービス株式会社社長。全日本地震防災推進協議会会長

インド洋大津波から5年

—スリランカの防災事情—

2004年12月のスマトラ沖地震・インド洋大津波は約23万人もの命を奪いましたが、津波はスリランカにも及び、スリランカでも3.5万人の犠牲者を出しました。

およそ5年が経ちましたが、スリランカ政府はこの間、防災対策の強化を重ねてきました。

今回、スリランカへの出張機会を得て、実際にスリランカの防災対策の充実を目にすることができたので、その一部を紹介します。



スリランカ地図

体制の充実

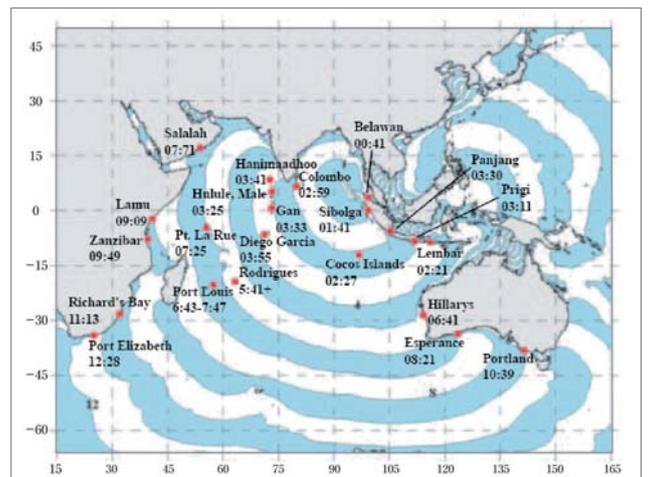
まず、政府の体制ですが、2005年に、防災・人道問題省 (Ministry of Disaster Management and Human Rights) という新たな省が設けられ、担当大臣にスリランカの大物政治家サマルシンハ氏が就任しました。

就任後には、災害対策の基本的な方向を定める災害対策基本法が制定されるとともに、国・地方の役割分

担などを定めた防災基本計画が策定されました。大臣は、日本にも何度も足を運び、日本の防災対策について学ばれています。防災対策の「自助」「共助」の重要性を認識し、それを現在、推し進めています。

インド洋大津波後の取組

ゴール県をはじめとして津波により多くの被害が出た地域では、2004年当時、「津波」という言葉を



2004年のインド洋大津波の影響圏域

知る人はほとんどおらず、津波がどのような現象で、どのように対処したらいいのかもわかりませんでした。津波に対する無知が被害を大きくしたといっても過言ではありませんが、スリランカ政府は、津波の後、沿岸部の都市を中心に、住民への防災教育を強化しました。住民に自分たちの住んでいるところを歩いてもらい、どこに自然災害のハザードが潜んでいて、実際に災害が発生したときは、どこにどのように逃げたらいいのかなどを自ら考えてもらうというワークショップという手法を使い、沿岸部の住民たちに自然災害を自分



インド洋大津波で横転した列車（スリランカ）

内陸部における 水害対策

津波の被害を受けたのは沿岸部だけでしたが、スリランカ政府は、沿岸部だけではなく内陸部についても

のことであり、取組んでいます。今回、実際にスリランカを訪れた感触では、インド洋大津波から5年が経った現在、住民レベルでも、その記憶は風化することなく、沿岸部の住民の間では津波への備えがそれなりになされていると感じました。

同様に住民の意識を高めることにより、災害への備えを強化しようと考えています。スリランカの内陸部は、洪水被害や土砂災害などがたびたび発生していますが、そこに住む住民の多くは、感覚的に災害リスクを感じてはいるものの、具体的にどこにハザードがあり、どのように対処しているのかは知りません。現在、スリランカ政府では、日本と連携して、沿岸部で行ったタウンウォッチングを内陸部にも広めていこうと考えています。

今回の出張は、その準備の一環だったので、今後、



内陸部の土砂災害現場

スリランカ各地で住民自らの手により災害リスクの把握が行われるよう「タウンウォッチング実施ガイドライン」を作成することにしており、実際にキャンディとガンポラという内陸の都市に足を運び、現地との関係者と協議を行いました。

スリランカ政府は、このように、大臣の強いリーダーシップのもとで、国民を巻き込んだ防災対策の強化に取り組んでいます。今後は、タウンウォッチングなどの取組が一過性で終わらないよう、国民の意識を継続的に高く維持していくことが課題だと考えられます。

まとめ

2月にはワークショップを開き、まず、政府の人々により実際に内陸部におけるタウンウォッチングを体験してもらおう予定になっています。



スリランカ政府との打ち合わせ

平成21年度原子力総合防災訓練を開催

平成21年12月21日、22日、茨城県で原子力総合防災訓練を開催しました。

原子力総合 防災訓練

平成21年度の原子力総合防災訓練は、東海村JCO臨界事故後、初めて茨城県で開催いたしました。

同県の日本原子力発電(株)東海第二発電所における原子力災害の発生を想定し、12月21日から22日にかけて、総理大臣官邸、緊急事態応急対策拠点施設(茨城県オフサイトセンター)、関係地方公共団体の間で、テレビ会議システムを活用した情報共有と意見交換などを行いました。

主な訓練項目は、次のとおりです。

- ① 緊急時の通信連絡、情報の収集・伝達訓練
- ② 警戒段階における緊急事態応急対策の準備のための連携活動訓練
- ③ オフサイトセンターの運営訓練
- ④ 原子力緊急事態宣言等に係る訓練
- ⑤ 緊急事態における対応訓練
- ⑥ 広報訓練
- ⑦ 自治体災害対策本部等の運営訓練
- ⑧ 緊急被ばく医療訓練
- ⑨ 事故拡大防止訓練



第1回原子力災害対策本部会議（官邸4階大会議室）

「防災とボランティア週間」の 東京タワー防災推進ダイヤモンドヴェール

1月15日から21日の「防災とボランティア週間」。平成22年は阪神・淡路大震災から15年。
東京タワーの特別ライトアップと、防災推進展示を行いました。

ライトアップと 防災推進展

毎年1月15日から21日は「防災とボランティア週間」、1月17日は「防災とボランティアの日」で、阪神・淡路大震災を契機として閣議決定されました。2010年は阪神・淡路大震災から15年。内閣府では人々の防災意識がより一層高まり必要な対策が講じられるように、東京タワーの特別ライトアップ（「防災推進ダイヤモンドヴェール」と防災推進展を行いました。

1月14日午後7時から、中井内閣府特命担当大臣（防災担当）、泉大臣政務官の出席のもと点灯式が行われました。大臣から「震災や災害を忘れずに、防災に力を注ぎたい」と挨拶があった後、点灯のスイッチが押されました。そして、阪神・淡路大震災から歌い継がれる「しあわせ運べるように」の演奏のなかで、「安全」を意味する緑色（ピュア・グリーン）と「希望」を意味する黄色（リボン・ゴールド）にタワーがライトアップされ、夜12時まで東京の夜を彩りました。

防災推進展は、1月14日から17日まで、東京タワーフットタウンの2階と3階で開催し、16日には東京タワーの正面玄関に、起震車、救助車、ポンプ車を展示しました。
これらの企画は日本電波塔株式会社、㈱石井幹子デザイン事務所、東京消防庁の協力で実施しました。



点灯式に臨む中井大臣（中央）と泉政務官（左）



起震車などの車両展示



模型を使った説明



ピュア・グリーン、リボン・ゴールドに輝く東京タワー

「防災シミュレーター」

前号で内閣府「震度6強体験シミュレーション」をご紹介しましたが、それは内閣府の「防災シミュレーター」のシステムの1つです。ほかにも多くの役に立つシステムがあります。今回はそれらを見てみましょう。

内閣府が作成している「防災シミュレーター」には、前号で紹介した「震度6強体験シミュレーション」以外にも、「我が部屋チェック」「揺れ方シミュレーション」「想定シナリオ」「各自治体防災情報HP一覧」という防災に役立つシステムがある。それぞれについて見ていく。

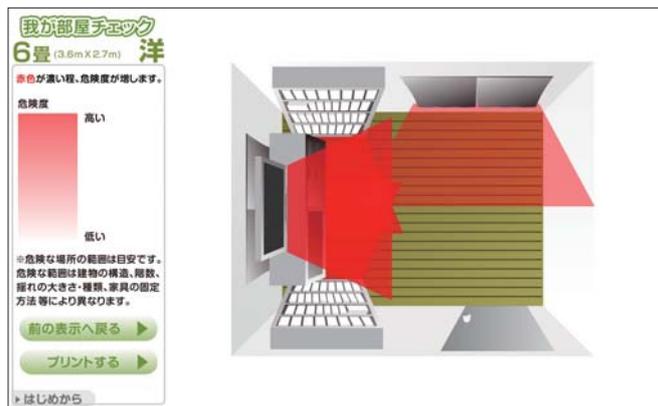
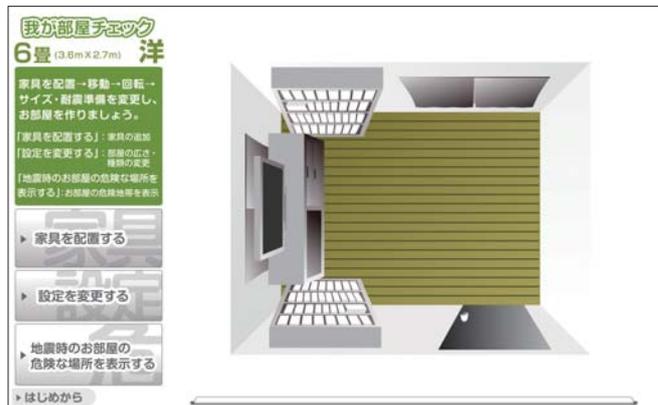
我が部屋チェック

利用者の家の中の特定の部屋について、地震発生時の「危険な場所」を確認するためのページ。

それぞれの部屋に応じた危険度をきめ細かく判定するため、各自の部屋の情報を入力する。「部屋の広さは？」(4.5畳から12畳)、「和室か洋室か?」。そこまで簡単に設定して、いよいよ肝心な家具の配置を行う。一見、家具はたくさんあるので配置が面倒だと思うかもしれないが、とても容易に作られている。たとえば

タンスを例にとっても、サイズ、向きは適当なものを選べるし、固定状況に至っては、突っ張り棒、壁との固定、耐震ゲルマットの有無まで選べる。

この作業をする
ことで、思った以上に家具の固定をしてないことに気づき、少し反省するとともに、自分の部屋には一体どんな危険があるのだろうか。ちよつとどきどきしてきた。
そして最後に、「危険な場所を表示する」ボタンを押すと、瞬時に危



険な箇所が表示される。地震時は、固定をしていないテレビが危険なところとはつきりした。うすうす感じてはいたが、ここまで視覚に訴えられるとまったく違う。

よく見ると、突っ張り棒、壁との固定、耐震ゲルマットの有無や飛散

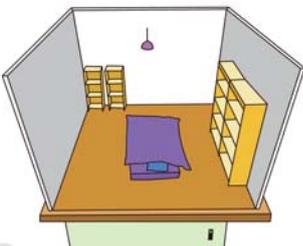
防止フィルムの有無によって、危険度が変わってくるというきめ細かさには脱帽だった。

揺れ方シミュレーション

家の模型を使った、地震発生時の

揺れ方シミュレーション

このシミュレーションでは縮尺模型を地震台で揺らすことで地震の揺れ方と家具の揺れ方をみなさんに体験していただきます。



▶ はじめから

木造建物に居住	
▶ 木造建物に居住2階 洋室 直下型地震	35秒
▶ 木造建物に居住2階 洋室 長周期地震	100秒
▶ 木造建物に居住2階 和室 直下型地震	40秒
▶ 木造建物に居住2階 和室 長周期地震	93秒
鉄骨・高層マンションに居住	
▶ 鉄骨・高層マンションに居住 8階 直下型地震	35秒
▶ 鉄骨・高層マンションに居住 8階 長周期地震	68秒

想定シナリオ

地震はいつでもどこで起こるかわかりません。季節、時間、場所、天気、家族構成、地震の大きさを決め、あなたに起こりうるシナリオを書いてみましょう。シナリオを細かく書くことで、災害時、あなたがとるべき行動がみえてくるはずですよ。

想定シナリオ例

- 季節：夏 天気：晴れ
- 時間：3:00am
- 場所：2階寝室
- 家族：妻、子(10ヶ月)、母
- 震度：震度6 縦揺れ

高層ビルで、職場で、デパートで、学校で、一戸建て、マンションで、電車の中で、地下鉄で、地下街で

▶ はじめから

各自治体防災情報

ホームページ一覧

各都道府県ごとに設けている防災に関するホームページを一覧にし、それぞれの住まいの周辺に関する防災情報にアクセスできるようにしました。

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県
茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
新潟県	山梨県	長野県	富山県	石川県	福井県	
岐阜県	静岡県	愛知県	三重県			
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	
鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県		
徳島県	香川県	愛媛県	高知県			
福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県
沖縄県						

全体

ハザードマップ (国土交通省) あなたのまわりのハザードマップ (国交省) 国民保護法に基づく避難施設一覧 (全国)

● 「防災シミュレーター」は、災害被害を軽減する国民運動に資するためのシステムとして、名古屋大学福和伸夫教授、東京大学目黒公郎教授の監修により、内閣府政策統括官(防災)において制作。「防災シミュレーター」は、インターネットで「震度6強体験」で検索。
<http://bosai.marvista.jp/>
 詳細は、内閣府政策統括官(防災) 災害予防担当「防災シミュレーター担当」まで (TEL 03-3501-6996)。

まずは、体験してみてください。あなたとあなたの家族の安心・安全のために、きっと役立つことがあるはずですよ。

室内の「揺れ方」を疑似体験するためのページ。「木造住宅」と「鉄筋・高層マンション」の別、「直下型地震」と「長周期地震」の別、「洋室」と「和室」の別を選択して、利用者の住まいの状況に近い条件での揺れ方を体験。このシミュレーションでは、縮小模型を地震台で揺らした映像を見ることがになる。実際に体験してみると、映像だけではなく、「音」も出るのので、かなりの程度、地震災害の疑似体験ができる。また、直下型地震に加え、長周期地震の揺れ方の映像もある。このように比較してみると、揺れ方

の違いがよくわかる。利用者それぞれの事情に応じた「想定シナリオ」を考えていただくための参考となる「想定シナリオ例」を提示。地震はいつでもどこで起きるかわからず、季節、時間、場所、天気、家族構成、地震の大きさなどの組み合わせにより、実際に起こりうるシナリオはさまざま。この例を参照することを通じ、災害発生時、本人や家族が見舞

われる状況をイメージしやすくして、必要な備えをしていただくことを目的とするもの。想定シナリオ例を読んだ後、自分と家族に照らして考えてみた。家族との連絡方法をどうするか、携帯電話は通じるのかなど、あらかじめ話し合うことは多い。良い機会だから、この週末にでも家族みんなで話し合ってみよう。

関するホームページを一覧の形にし、利用者がそれぞれの住まいの周辺に関する防災情報にすぐにアクセスできるようにしたもの。早速、自分の家がある「神奈川県」の情報を見てみたが、防災・災害情報、災害対策マップ、ゆれやすさマップなど、必要な情報に簡単にアクセスすることができた。田舎の両親にも知らせようと思う。

1923年9月1日

関東大震災

その3

文：室崎益輝（関西学院大学総合政策学部教授）

10万人余りの命と、30万の家を奪った関東大震災。本誌では火災と災害対応について述べてきましたが、今回から2回に分けて、復興事業を取り上げます。当時、世界最大規模の復興事業をどのように行ったのか。今回は都市復興について報告します。

帝都復興計画の策定

関東大震災では、東京や横浜を中心とする首都圏が壊滅的な被害を受けた。その被災範囲が焼失面積の約4500haにも示されるように広大であったことから、震災復興としては世界最大規模の事業が行われるこ

土地区画、幹線道路、公園が整備され、学校や橋がモダンなデザインで作られた。

とになった。この復興を担う審議機関として、国に総理を総裁とする帝都復興審議会が設置され、その執行機関として内務省が直轄する帝都復興院が設置された。帝都復興院の総裁には内務大臣であった後藤新平が就任している。

復興は、都市基盤や公共施設の整備を図る都市復興、住まいや暮らしの確保を図る住宅復興、経済や産業の回復を図る経済復興などに大別されるが、被害の甚大であった東京市と横浜市

の都市復興については、国が「帝都復興計画」を定めて復興の重責を

担った。その他の復興については、府県が中心となって行っている。なお、帝都復興計画の原案づくりを担ったのは、後藤を中心とする復興院であった。

復興院では、スラム問題や衛生問題などを抱えた東京のせい弱な都市基盤を改造することを目標に、後に

関東大震災 PROFILE

プレート境界地震

マグニチュード >>> 7.9 (11時58分)

死者行方不明者 >>> 105,385人

焼失家屋 >>> 212,353戸

非焼失全潰家屋 >>> 79,733戸

流失・埋没家屋 >>> 1,301戸

「後藤の大風呂敷」といわれる理想主義的な原案をまとめたが、第一次世界戦後の不景気という財政状況の中では受け入れられず、復興審議会の中でその内容が大幅に修正されることになった。そこでは、復興事業の範囲から非被災地を外す、京浜運河

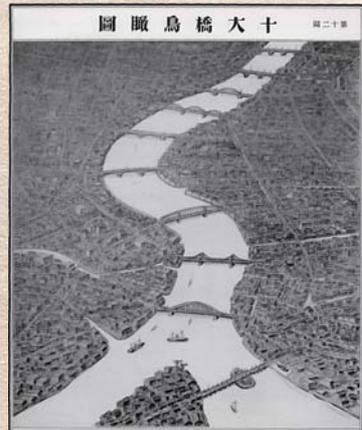
や東京築港などの計画は除く、幹線道路の幅員を大幅に削減するなどの、変更が加えられた。

復興都市計画の成果

そうした計画の大幅な縮小にも拘わらず、帝都復興計画に基づく事業



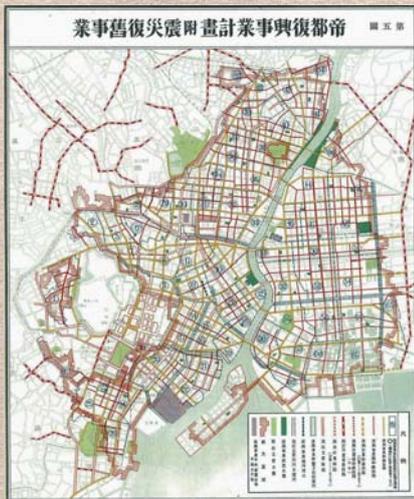
山下公園（昭和5年。出典：横浜市「港町横浜の都市形成史」昭和56年）



隅田川の橋梁（出典：東京市「帝都復興事業図表」昭和5年3月）

備で見逃してならないことは、小学校に隣接する形で復興小公園が設置されたことである。近隣住民の利用、教材としての活用、防火避難の活用を企図してのことであるが、日常と非常を重ね合わせた着眼は、高く評価できる。

は大きな成果を上げている。第1に指摘できるのは、約3300haの土地区画整理事業が実施され、街路や公園が整備された近代的な街並みが、造られたことである。第2は、幹線道路が174路線260kmにわたって整備され、今日の東京の骨格をなす道路網が形成されたことである。昭和通りなどの幹線道路の多くはグリーンベルトを伴ったもので、都市景観面からも都市防災面からも評価されるものであったが、後世においてグリーンベルトは車道になってしまった。第3は、大小の公園が多数整備されたことである。東京では、隅田公園、浜町公園、錦糸公園、横浜では山下公園、野毛山公園などの大公園が整備されている。この公園の整備



帝都復興計画事業図（出典：東京市「帝都復興事業図表」昭和5年3月）

第4は、近代的な公共施設やインフラが整備されたことである。鉄筋コンクリート造の小学校や鉄製の橋梁がモダンなデザインで建設されたことはその代表例である。今なお隅田川にかかる永代橋や言問橋などに、復興の息吹を感じることができる。さらには、市民の生活に密着した中央卸売市場、ゴミ処理場、浄水場などの公的な施設の整備も図られている。

復興都市計画の問題点

こうした復興の成果の反面、復興の問題点も少なからずみられる。その1つは、無秩序なスプロールによる郊外での脆弱な市街地の形成である。復興計画の範囲から非被災地が除かれたこと、震災を契機に多数の人々が郊外に移住したこと、その人々を受け入れるための基盤整備が後手に回ったことなどが、公共空間の少ない危険な密集市街地や不良住宅地を被災地周辺部に生み出すことにつながった。もう1つの問題点は、被災地内におけるバラック建築の未撤去によるスラム地区の再形成である。バラック住宅の解消を図るための代替住宅の供給が十分でなかったこと、バラックの規制が不十分で住宅の不法状態の既得権化を許したことが、危険なスラムの温存と再生につながってしまったのである。

築地市場（出典：東京市「築地本場・建築図集」昭和9年）



小学校建築（東京市立千代田小学校。出典：復興調査協会編「帝都復興史附横浜復興記念史」興文書院、昭和5年）

防災リーダーの 素顔

第5回

(特活) 災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード
蓮本浩介さん

「私

は熱い活動家じゃない」と語る蓮本さんは、大学で社会

福祉士を目指していた平成7年、阪神・淡路大震災が起り、教授から、兵庫県社会福祉協議会へ就職を勧められた。

そして、特別養護老人ホーム喜楽苑が運営していた被災地芦屋のケア付き仮設住宅に、生活や住宅のための融資業務で行き、プライベートでも住んでいる人たちの支援のため通った。これが転機となった。

「そのスタッフや住民の方々に大きな影響を受けました。ほかにも被災地で家も仕事も失いアル中になった人、瓦礫の中に生きている人がいるのに火事で助けられなかったと悔やんでいる人。いろんな方と出会い

福祉を学び いつのまにか 防災に関わっていた

阪神・淡路大震災後、
兵庫の社会福祉協議会で
ケア付き仮設住宅の人々と
出会った

ました」

この住宅では、コミュニティも家族



研修で講師を務める

も失った人にとって、人々と触れ合う共用スペースが、とても重要な意味を持っていた。

「新しい住宅に移ることができのに、このほうが良いという人がいるくらいでした」

「被災後の復旧・復興では元に戻らないものがある。それよりも災害に遭わない、起きてても被害を少なくすることが大事だと思います」

こうして、社会福祉に進んだ若者は、防災・災害に関わる活動に深く関わることになる。

「福祉と防災は少し視点が変わります。例えば要援護者といっても、同居でも昼間独りの高齢者、多くの幼い子を育てる母親、生活課題を抱える方など配慮すべき対象者は多い。両方の視点をつなぐのが私の役割です」

災害ボランティアセンターの設置運営、DIG(災害図上訓練)に携わり、震災から10年を一区切りとして社会福祉協議会を退職。現在、DIG講習、BCP(事業継続計画)指導、福祉学校講師などを務める。

「平成17年の中越地震では、被災地の福祉施設こぶし苑が、仮設住宅で暮らす高齢者のために、災害サポートセンターをつくりました。そこから災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードは、生まれました。経験を生かして、他の福祉施設とネットワークを作っています」

「災害時、福祉施設などが要援護被災者を受け入れることになっています。でも入所者も職員も被災し万全な対応はできない。被災していない地域の福祉施設が協力する体制が必要ですが、どこも日常の仕事で一杯。この状況を解決する仕組みを検討していくことが課題です」

「おしゃれで楽しい防災」も構想・提案する蓮本さんは、新世代の防災リーダーとして、さらに活躍していくことだろう。



はすもと・こうすけ ● 川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科卒。阪神・淡路大震災後の兵庫県社会福祉協議会で被災者支援、災害ボランティア支援など。全国社会福祉協議会を経て現在は、(特活)災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード理事、(財)消防科学総合センター客員研究員・防災図上訓練指導員など。

非常食を食べる

災害用備蓄食料としてはアルファ化米、アルファ化米の加工食品、各種缶詰、チヨコレート類、水などが保管されています。

「アルファ化米」

主食となるアルファ化米とはどのようなお米なのでしょうか。

私たちが毎日食べているご飯は、生米を炊くことでやわらかくておいしいものになります。これは、生米のベータグリンが炊飯することでアルファグリンに変化するからです。

炊いたご飯を乾燥したものがアルファ化米です。昔はこれを糶(ほしい)といい、旅などの携帯食として利用されてきました。現在のアルファ化米は5年間の保存に耐えるものとなっています。

●おかゆ(保存期間5年)

中身はうるち米を原料としたアルファ化米で、空気を含んだつぶつぶの形状をしており、熱湯で5分、水(15℃)で40〜50分で食べられるようになります。熱湯でもどとして、食べてみると口の中でお米の粒々がつぶれる、おかゆの食感そのものです。

●五目ご飯(保存期間5年)

中身はうるち米を原料としたアルファ化米に鶏肉、人参、ゴボウなどの味付けした乾燥具材が入っており、



アルファ化米のおかゆにお湯を注いだもの



アルファ化米の五目ご飯(保存期間5年)



アルファ化米の五目ご飯にお湯を注いだもの

熱湯で15分、水(15℃)では60分で食べられるようになります。炊き立ての五目ご飯とまではいきませんが、味

付けされた具材がご飯と混ざり、おいしくいただけます。

「乾パン」

非常食の定番といえば乾パンを思い起こす方も多いと思いますが、乾パンとはどのようなものなのでしょうか。

現在の乾パンは軍事用の携帯食糧として研究開発されたものです。

小麦粉を主原料として練った生地を醗酵させ、焼いたもので糖類や脂肪が少なく保存食として使われています。

乾パンというと堅いイメージがありますが、最近の製品はビスケットのような食感のものがあります。ただこれだけ食べていると、飲み物がほしくなります。飲料と一緒に置いておく必要があります。



乾パン(保存期間5年)

「缶詰」

一般的な缶詰類の賞味期間は3年が目安となりますが、備蓄用としてさらに長期間保存のできるものもあります。

●さんま缶

見かけは通常、販売されているさんまの缶詰と大差なく、骨も柔らかく一緒に食べられます。



さんま缶(保存期間約3年)

「水」

ペットボトルに詰められた5年間保存できる、備蓄用のものが販売されています。家庭では通常市販されている水のペットボトルを買いだめし、古いものから順番に使い、常に必要な量を確保しておくという方法があります。

備蓄食料は乾燥化したものが多いいため、備蓄用の食料とともに水も確保しておきましょう。

日本の 知恵 を世界に

第5回
まち歩きワークショップ

阪神・淡路大震災の 教訓による ネパールの防災力強化

国連地域開発センターは
大地震の危険性がある
ネパールで
コミュニティの防災力を
高めています

世界へ広めていくべきものとして、
UNCRDは兵庫県からの委託によ

国 連地域開発センター
(UNCRD)は、1985年から名古屋本部で防災分野の活動を開始し、その機能は1999年、防災計画兵庫事務所へと引き継がれました。以来、UNCRD兵庫事務所では、地震国での安全な学校の推進や、耐震基準の普及を含めて、コミュニティ防災を核として防災支援に携わってきました。

コミュニティ防災は、阪神・淡路大震災の重要な教訓です。震災発生時、最初に瓦礫の下の人々を救助したのは、隣近所、地域の人々であり、その後の復興に最後まで関わったのは当事者である地域の人々でした。

よりよい社会への復興プロセスで住民が中心であるべきという教訓は



ネパールのまち歩きワークショップ

り、コミュニティ防災活動を推進してきました。そのなかでネパールの事例を紹介します。

ネパールは1934年に大地震を経験しています。しかし、首都カトマンズは脆弱な建物で埋め尽くされ、人々の地震に対する意識は低いのです。そこでUNCRDはNGOや行政と協力して、まち歩きワークショップの開催や、女性への家具の安全備え付けトレーニング、地方開発省や関連省庁の関係者へのトレーニングなど、さまざまな活動を行っています。

まち歩きワークショップでは、地元の人々が自分の地域の危険性をまず知り、そして阪神・淡路大震災時の教訓を学び、それぞれのコミュニティに戻り、災害が起こったらどうなるかという観点から歩いてみます。そして災害時に強みとなりうる場所(広場や井戸など)や脆弱な場所(狭い道路

など)を考えます。それらを地図上に書き込み、コミュニティの人々によるハザードマップ(危険要因地図)が完成します。

ハザードマップ作りは作って終了することが多いなかで、このプロジェクトでは、住民たちによって書きされたハザードマップをデジタル化し、啓発メッセージとともに地域の市役所やバス停の前などに看板として設置しました。

このように住民自身が自分たちの問題を考え、行動することにつながる過程こそがコミュニティ防災の重要な鍵です。

住民と専門家が考えていく過程で、それぞれの地域にあった特有のものを一緒に作り出していく、それが阪神・淡路大震災で学んだ「住民が主役」となるコミュニティ防災ではないでしょうか。



斉藤容子(さいとう・ようこ)●国連地域開発センター(UNCRD)防災計画兵庫事務所研究員。アフガニスタン復興支援などに携わり、ノーザンブリア大学「防災と持続可能な開発」修士修了。UNCRDでジェンダー配慮コミュニティ防災の調査研究。

もし、1日前に戻れたら…

私たち(被災者)から皆さんに伝えたいこと

地震、津波、風水害……さまざまな災害を実際に体験した方に、
「もし、1日前に戻れたら何をしますか?」と訊ねたのが、「一日前プロジェクト」。被災者の声は、
私たちにいろいろなことを教えてくれます。今月のテーマは『平成17年台風第14号(平成17年9月)』です。

保険は絶対必要 ～見積り中で、間に合わず～ (宮崎市 60代 男性)

定年になって40年ぶりにふるさとに帰って、家を新築したのはいいけれど、たった9カ月でこの水害にあい、泥水につかった家は、新しくそろえた家財道具もろとも、使いものにならなくなりました。

家を建てるときは、この土地は昔から水害が多いということで、1メートル50センチぐらいかさ上げをしました。「これだけ上げたら大丈夫」と思っていたのに、あれよあれよという間に水が押しよせてきて、それこそ、女房と2人で貴重品と毛布だけを持って逃げるだけで精いっぱいでした。

結局、床とか壁は全部とり替えましたから、老後の資金にと残しておいたお金の半分を使わなければならなくなりました。

私も長い間仕事をしてきて、保険の大切さはわかっていたんですよ。だから4社ぐらいから見積をとって、どれが有利かよく勉強して、年末までにどの保険に入るか決めようと思っていた矢先でした。「早く保険に入ってさえいれば」と落ち込みましたが、運がなかったからだ、あきらめました。



水害の後始末に 3カ月 (宮崎市 20代 女性)

うちは平屋でフローリングの部屋が3つあって、あとは全部畳だったので、まずは畳を張りかえてからということで、水害後1カ月ぐらいは親戚のところやりに住んでいたのですが、おばあちゃんは認知症ごみでしたし、「やっぱり家がいいね」という話になりました。

まずはおばあちゃんの部屋を住めるようにし、その次に、そこでみんなが寝られるようにフローリングの部屋を1つきれいにし、というように、徐々になおしてきました。年末にやっとすべて終わったという感じになりましたが、完全に元の生活に戻るまでに3カ月以上かかりましたね。

ピアノはもちろん、タンスとかも、家にあるものほとんどすべてダメになりました。ただ、不思議と冷蔵庫とエアコンは生きていました。塩水でなければ、電気製品は自然に乾かせば使えるものもあるようです。避難するときに電気のブレーカーを下ろしておけば、少しでも被害を軽くできるんじゃないかなと思います。



命綱つけて濁流の中を泳いだ ～おとしより救助も命がけ～ (延岡市 30代 男性)

僕は社会福祉協議会の職員ですが、当時消防団員もやっていたので、救助活動のために現場に行きました。そこはほんとうにすごい展開になっていて、「役場からの命令じゃないと動かない」と言っていたおじいちゃん、おばあちゃんが家に取り残されている状況でした。

水の流れが速くて、ボートをこいだら自分たちが流されちゃうぐらいなんです。で、僕は泳ぎがかなり得意なものですから、命綱をつけ、ボートのロープをもって、濁流の中を泳いで助けに行きました。なんとか無事に泳ぎきりましたが、普通の人は、絶対にしてはいけないと思います。危険ですからね。

「とにかく乗りなさい」といって、二人をボートに乗せました。おじいちゃん達は、とりあえず必要なものだけはビニール袋に入れていましたが、あとは着の身着のまま。雨が激しくて傘をさせるような状態ではなかったもので、ずぶぬれになりながらボートの上で不安そうにしていました。

近所の方が避難するように言っても、かたくなに「もう、ここから動きたくない」という人がよくいますが、やっぱり避難は早めにしないとイケませんね。



被災者の実体験を聞くことができる『一日前プロジェクト』は左記HPでも見ることができます。家庭はもちろん、地域や職場など、さまざまな話が掲載されていますので、企業の「社内報」や地域での「広報」に幅広く活用してください。

「防災絵本」を見る

より具体的に災害のイメージを実感できれば、事前に災害に備えるという行動につながる。イメージを深めるための有効な手段の一つには、防災絵本がある。

絵本には、防災計画やマニュアルを読むのと違い、心の中にある感覚が残る。その感覚は小さな子どもにも伝染する。私たちの「宝」を守るため、読ませておきたい絵本。そういった絵本を今回は紹介したい。

イルカのラボちゃん

文：すずきたかし（越前松島水族館長）
 絵：やまさきようこ（おけら牧場）
 福井新聞社



この絵本は、平成9年のロシアのタンカー「ナホトカ号」の重油流出事故のときにあった本当のお話。

福井県三国町（現在の坂井市）の海岸に漂着した大量の油。それが、越前松島水族館のイルカのプールにも入り込み、飼育していたイルカたちに忍び寄せた。

それに気づいたボランティアたちは、トラックを手配し、受入れ先を探し、神戸の水族館に受入れてもらった。

当時生後6ヶ月のまだ乳飲み子で名前も決まっていない赤ちゃんイルカがいた。赤ちゃんイルカの移動は、99%難しいと思われていた。遠くへ運ぶまでに、死んでしまうかもしれない。名前をつけて勇気づけよう！

海やプールの油をすくってくれたたくさんさんのボランティアさんの文字をもらって「ラボ」。ラボは5時間の輸送に耐え奇跡的に命の危機から脱するこ



元気に育ったラボ（写真提供：越前松島水族館）

とができた。ラボは、みんなの気持ちに生かされたのだ。

この救出劇を絵本にしたのが、「イルカのラボちゃん」。尊い命を助けるために、数百人のボランティアが関わった。命の貴さ、環境の大切さ、ボランティアの大切さを考えさせる物語。いまでは、福井で子どもミュージカルにもなっている。

越前松島水族館を訪れると、いまもラボは元気な姿でショーを見せている。

子ども安全えほんシリーズ② そなえる

絵：中村みつを
 監修：危機管理アドバイザー 国崎信江
 株式会社学習研究社



この絵本は、登場人物のソナエールはかせと、なまずロボと一緒に、地震が起きてしまったときに、どうしたらいいのか、少しずつ考えていく構成と

なっている。

そもそも地震とは何かをイメージできない小さな子どもでも、ストーリーを追っていくと、地震のときにしたほうがいいことが、一通りわかるようになっていく。それは、行動のポイントが、「仕掛け」となるように工夫されており、シール、迷路、絵探しなど、意味をわかっているからだ。

地震というものを子どもに初めて教える教材として、必要なポイントがきっちり押えてあり、とてもいい絵本といえるだろう。



Q

自主防災活動を地域住民と継続していくためには、 どんな工夫をしたらいいでしょうか？

防災 Q&A

年間を通して、住民が興味をもって参加・活動するプログラムを作りましょう！

定期的に行う会合にはさまざまな講師を招いて講座を開き、春には消火器点検や防災訓練、夏には水害や水の事故防止、秋から冬には火災予防訓練など、季節ごとに住民の興味のある内容を実施して、防災意識を継続するように活動しています。



私

私たちの自主防災組織は、消防団員OBが中心になって活動

しています。消防車が来るまでの初期消火をどうするか、お年寄りや要援助者を災害時にどうするかということから活動を始めました。

災害が発生したとき、自分たちの地域は住民の力で守れるようにしようと、地域の人々の防災意識を高めて、自治会や民生委員、消防団などにも活動をするように努めてきました。

私たちの組織は平成6年に発足しましたが、当初、地区住民の関心は

高くはありませんでした。しかし、翌年の阪神・淡路大震災によって意識が大きく変わりました。それでも、しばらく身近に感じられる災害が起きないと、危機感は薄れます。

住民の日ごろの危機感を継続していくため、防犯活動をとりにれています。防災と防犯は重なる部分があり、防犯パトロールなどの活動は、火災や犯罪を防ぐだけでなく、地域や住民をよく知ることが、災害時にも役立ちます。年末には、民生委員や消防団と協力して1人暮らしの老人を訪問し、火の元を点検するなど

の活動も行っています。

自主防災活動を継続するためには、組織をしっかり作り、きちんとした年間計画を立てて、自治会や他の組織と連携することが必要です。そして、さまざまなプログラムを工夫して、人々に常に関心を持ってもらい、参加を働きかけることが、住民とともに活動を続けていくポイントだと思っています。

平成15年7月20日、19名の尊い生命が奪われた水俣豪雨災害では、住民避難や避難所開設などの際に、このような日ごろの自主防災活動を生かすことができました。

水俣市第3区自治会防災防犯委員会（熊本県）
久木田一也（くきた・かずなり）

平成4年から12年、まで水俣市消防団に勤務、平成6年に第3区自治会防災防犯委員会を立ち上げる。委員会は平成21年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞した。

防災、災害に関する疑問・質問がありましたら、内閣府（防災担当）まで、はがき、FAXにてお寄せください。

専門家がいないにお答えします。
〒100-8969

東京都千代田区霞が関1-2-2

中央合同庁舎第5号館3階

内閣府（防災担当）まで

0335818933（FAX）

眼

「ここまで水が来よったんですよ」。民宿のおかみが指さした1階大広間の柱には、大人の腰の位置に平成17年9月の台風襲来時の水位が青のマジックで刻まれていた。日本最後の清流として知られる高知県の四万十川の畔。昨夏、カヌーで5年ぶりに再訪した私に、あらためて「暴れ川」の一面を見せつけてくれた。

「家の中で大きなコイが泳いでいて、不謹慎だけど写真撮っちゃいました」。おかみがいたずらっぽく笑いながら差し出した1

枚には、部屋の中で魚取り網片手に収まっている子どもたちの姿があった。

ゆったりとした清流のイメージがある四万十川だが、増水時には大量の土砂を巻き上げ、三角波を立てる濁流と化す。全長196キロの本流には発電用の小さな堰が1つあるだけで、台風などの大雨で水位は一気に5〜10mも上昇する。山々を縫うように蛇行する流れには河口付近を除いて堤防がなく、10mも増水すれば浸水する家が出る。

「たまに水をかぶるかもしれん。でも川に近いが便利ながよ」。集落で一

洪水を 意識する



共同通信社内政部記者
奥田 有一

おくだ ゆういち ●平成11年共同通信社入社。高知支局、仙台支社、横浜支局を経て平成20年4月から内政部。

番に水に浸かるといわれる家に住む青年は事もなげに語る。青年は川漁や料理の仕出しの傍ら、時折カヌーのガイドもこなしている。川底の泥や古い藻をたまに洗い流してくれないと、水は濁るしアユが泥臭くなるので困る、とも。近所の人々はいう。「あなたの家が年に2、3回は浸かってくれんと四万十川がよう（良く）ならん」。

こんな冗談を飛ばす隣人も、増水時には真つ先に青年の家に駆けつけ、総出で家財道具の避難を手伝う。後片付けもやはり集落総掛かりだ。「水が引き始めたらほうきや棒でかき回して、川に全部持っていつてもらう」のがコツだとか。なるほど、何度も水に浸かっているはずの家々には、わずかな壁の染みを除いて痕跡がほとんどない。

今、日本の治水政策は転換期を迎えている。政権交代後の政府は「コンクリートから人へ」を合言葉に、百〜二百年に1度の大雨を想定して、ダムで一時的に堰き止める量と河道に流す量に分けるという従来の方針から、「できるだけダムに頼らない治水」への転換を目指して有識者会議で議論を重ねている。

中止後の地元補償や生活再建はか

りが注目されているが、治水方針の転換は、これまで積極的な議論が避けられてきた「万が一のときの避難」という課題も浮き彫りにしている。百年単位の確率の大規模な洪水を想定して、常に河川を「整備途中」の状態にしておくのではなく、過去の記録や財政状況から判断して現実的な整備目標に置き換えるのだから、当然「想定以上の事態」の頻度は上がる。では備えのほうはどうか。

残念ながら一部の水害常襲地を除いて、洪水に対する危機意識は河川整備の進捗とともに希薄になってきているにしろだろうか。平成10年の利根川の増水時には、堤防から河川側の駐車場に止めていた車両が多数流された。そこは河川の一部であるという意識すら共有されていなかったのだ。

今夏に政府が示す治水方針では、避難対策などのソフト対策により重点が置かれるだろう。せっかくの機会である。行政がハザードマップ作成や防災情報の提供手段などの整備を進めるのはもちろん、川沿いに暮らす誰もが「想定外の洪水」に備えて、避難場所や連絡手段などを、家族や地域で話し合う機会になればと願う。

● 編集・発行
内閣府(防災担当)予防参事官室
〒100-8969
東京都千代田区霞が関1-2-2
(中央合同庁舎第5号館3階)
TEL: 03-5253-2111(大代表)
FAX: 03-3581-8933
URL: http://www.bousai.go.jp/

ご意見・ご感想を、内閣府
(防災担当)広報「ぼうさい」宛で、
はがき、FAX、メールにて
お寄せください。

● 編集協力
株式会社ウィズダム
〒164-0011
東京都中野区中央5-40-18
キャピトル丸山4F
TEL: 03-5341-8171
URL: http://www.wisdom-tie.com

● デザイン
有限会社ケイズハンズ

● 印刷・製本
メディアランド株式会社
printed in Japan

『ぼうさい』3月号は平成22年
3月末発行の予定です。

編集後記

大雨の中の通勤で、水溜りに足を踏み入れて靴がずぶ濡れになってしまった。災難だ。
風も強く、傘の骨も折れて、駄目にしてしまった。災難だ。
駅につくと、風雨の影響で電車の運行が止まっている。災難だ。
この災難も、程度がひどくなったら?家に浸水し、屋根が飛び、ライフラインなどが止まったら? 災害だ。
災害は、災難の延長線上にある。そう考えると災害は意外と身近なものなのかもしれない。ただ、そのことに気付いていないだけで。(太)

『ぼうさい』購読のご案内

本誌の購読をご希望の方は、(株)ウィズダムまでお申し込みください。お申し込みは電話、FAX、メールにて承ります。
TEL: 03-5341-8171
FAX: 03-5341-8172
E-mail: shiga@wisdom-tie.com

1冊300円(税込み)
※送料別途: 1~5冊80円
5冊以上160円または実費

第24回防災ポスターコンクール 受賞者の声

いわかわ めぐみ
岩川 萌さん
「防災推進協議会会長賞」
幼児・小学1~4年生の部



わたしのママは、けんちくしです。
じしんにつよいおうちをつくったり、こわれるとあぶないばしょをしらべるおしごとをしています。
わたしも、ときどきママのしごとばについていて、いろいろおしえてもらいます。
おうちのなかでじしんがきたら、うえからものがおちてきたりするので、つくえのしたがあんぜんです。
わたしがいちねんせいになると、とおるみちにブロックのへいがあります。じしんがくるところかわれるのできをつけたいです。
(愛知県 だれでもアールティストクラブ 幼児)

Schedule

12月~1月の動き

- 12月1日 中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」(第18回)
- 12月11日 事業継続計画策定促進方策に関する検討会(第6回)
- 12月14日 大雨災害における避難のあり方等検討会(第2回)
- 12月21、22日 平成21年度原子力総合防災訓練
- 12月25日 平成21年度首都直下地震の復興対策のあり方に関する検討会(第2回)
- 1月14日 東京タワー防災推進ダイヤモンドヴェール
- 1月15日 中央防災会議
- 1月15日~1月21日 防災とボランティア週間
- 1月15日 平成21年度政府総合図上訓練
- 1月16日 国際復興フォーラム2010(於:神戸市)
- 1月17日 防災とボランティアの日
- 1月17日~19日 アジア防災会議2010(於:神戸市)
- 1月17日 阪神・淡路大震災15周年追悼式典
- 1月24日 防災とボランティアのつどい
- 1月28日 事業継続計画策定促進方策に関する検討会(第7回)
- 1月29日 中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」(第19回)

2月~3月の予定

- 2月9日 大雨災害における避難のあり方等検討会(第3回)
- 2月13、14日 防災教育チャレンジプランワークショップ
- 3月9日 日韓防災会議
- 3月19日 大雨災害における避難のあり方等検討会(第4回)

防災 ちょっとクイズ

問題 災害時のために備蓄すべき飲料水の目安は、1人1日何リットルでしょう?

- ① 1リットル ② 2リットル ③ 3リットル

(答えは25ページ)

政府インターネットテレビ 51ch 防災チャンネルのお知らせ

政府インターネットテレビは、国民生活にかかわりの深いテーマについて、広く国民の方々に、その内容、背景、必要性などを知っていただくための情報などを、動画でわかりやすく提供しています。(http://nettv.gov-online.go.jp/)

「防災チャンネル」は、災害への備えなどの防災に関するさまざまな情報を、VTR 取材などを挟みながらゲストとのトークやクイズを実施し、幅広い年齢層に分かりやすく紹介しています。

防災チャンネル で検索を!

緊急地震速報 その時あなたは!?一峰竜太のナッ得!ニッポン

自分たちの地域は自分たちで守る～自主防災組織～中西哲生のJust Japan

防災ボランティア活動に関する番組の提供が開始されています。みなさま是非ご覧ください!

・番組名 助け合う人の力が「防災力」 ・テーマ「きょうからはじめる防災ボランティア活動」